

氏名	松 本 芳 則
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3440 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	超音波画像による大腿四頭筋の形態評価—厚さ測定の信頼性と臨床的有用性について—
論文審査委員	教授 村上 宅郎 教授 平木 祥夫 教授 田中 紀章

学位論文内容の要旨

超音波画像による大腿四頭筋評価の臨床的有用性について、健常者および膝靭帯損傷術後症例の筋腹の厚さを測定して検討した。健常者調査では、青壮年男性15名を対象とした。片側の膝靭帯損傷例では、7名を術後11～20カ月まで追跡した。

超音波診断装置を用いて、大腿四頭筋各筋の筋腹の厚さを安静時と四頭筋セッティング時で計測した。健常者平均値では内側広筋（VM）の筋厚が最も大きく、次いで大腿直筋（RF）、外側広筋（VL）、中間広筋（VI）の順であった。VM/VLの2筋比は1.4であった。膝靭帯損傷の術後1～2カ月では、VIの萎縮が最も著しく、VM/VLは健側と統計学的有意差はなかった。VMはRFより萎縮が高度であった。

超音波画像は大腿四頭筋各筋の静的および動的観察が容易にでき、筋萎縮の評価など臨床における有用性が高いことが分った。

論文審査結果の要旨

本研究は、超音波診断装置を用いて、健常者（青壮年男性15名）および膝靭帯損傷後症例患者（7名、術後11～20ヶ月）の大腿四頭筋の厚さを安静時と四頭筋セッティング時で測定した。その結果として、本研究は「超音波画像解析は、大腿四頭筋各筋の静的および動的観察を容易にし、筋萎縮の評価など臨床における有用性が高い」という価値ある知見を得ている。

よって、本研究は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。